

平成16年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座募集要項

主催：名古屋大学大学院国際言語文化研究科

『古典を読み直す』

誰でも一度くらいは、文学作品に接して、心躍らせた経験があるでしょう。「古典」が私たちに読み継がれているのは、それが時間の経過とともに、さまざまな様相を見せてくれるからに違いありません。しかし一定期間後にある作品を読み返してみたとき、それは、本当に、かつてと同じような輝きを保っているのでしょうか、それとも色あせて見えるのでしょうか。一定期間とは、私たちが経験を重ねた時であり、社会が変化し、知が進歩をとげた時でもあります。新たな知の見地から「古典」を読み返したとき、そこにはどのような世界が開けてくるのかを、一緒にのぞいてみませんか。

6月14日(月)(第1回)	開講式 ■シェイクスピアを読み直す キーワード：シェイクスピア、ローマ史劇、身体 「シェイクスピアを研究しています」と人に話すと、今から400年も前の作家と作品については、すべて発見され、また研究し尽くされているのではないと言われることがあります。しかしシェイクスピア研究はとどまることがありません。そのなかでも、近年とくに「身体」に焦点をあてた研究が盛んです。その関心が登場した背景を考え、『タイタス・アンドロニカス』『コリオレーナス』などのローマ史劇を例に、「身体」を具体的に分析してみたいと思います。	大学院国際言語文化研究科長 近藤 健二 教授 村主 幸一
6月16日(水)(第2回)	■リルケを読み直すーリルケと身体性 キーワード：リルケ、身体、舞踊、ドイツ モダニズム 『マルテの手記』で知られる、ライナー・マリア・リルケには、孤独で内面的なイメージがあります。しかしリルケは、20世紀初めの様々な身体文化や舞踊文化と多くの接点を持っていました。『ドゥイノ悲歌』に登場するサルタンバンクや、『新詩集』の踊り子を思い浮かべる方も多いでしょう。本講座では、ビデオや写真を交えながら、ドイツの身体文化運動、ニジンスキーやサハロフ夫妻の舞踊などとリルケの具体的な関わりを紹介します。	助教授 山口 庸子
6月21日(月)(第3回)	■ゼルゲイ・エイゼンシュタインを読み直す キーワード：モンタージュ、「純映像的文法」、映像的弁証法 トーキー（有声）映画が開発される前でも、映画の草創期の作家たちは映像だけを使って、まだ無声だった映画に「音声」や「語る声」の効果をもたらすように腐心した。1920年代において、ソビエトの映画監督ゼルゲイ・エイゼンシュタインは映像を一種の「単語」として、そしてモンタージュを一種の「文法」として考え、画期的な仕事を成し遂げた。「戦艦ポチョムキン」などの傑作映画を作ったばかりでなく、有名な「モンタージュ論」を世に送った。1960年代の半ばあたりから、若いハリウッド映画監督たちはその理論を復活させ、そこにある程度の修正をくわえながら、「ハリウッド・ヌーベル・バーグ」を打ちたたてたのである。この講義は、エイゼンシュタインのモンタージュ論を考察しながら、それが1970年代のハリウッド映画にどのような影響を与えたかを探求する。	教授 P.B.ハーン
6月23日(水)(第4回)	■今昔物語を読み直すーお肉を食べても浄土に行ける キーワード：殺生禁止と食肉 代表的な仏教説話である『今昔物語』本朝編から、殺生や食肉禁止に関する説話を取り上げる。また九世紀前半に成立した同様な仏教説話『日本霊異記』と比較も行う。その説話の分析を通して、古代末期から中世に至るまで、仏教説話には、食肉を否定する思想が貫かれてはいるが、必ずしも嫌悪されていなかった事実を検証する。また、『日本霊異記』において、殺生禁断が天皇に対しては例外としている説話に注目し、当時の殺生禁止令が目指したものを考察することで、その流れが『今昔物語』にも引き継がれているかどうかを明らかにする。	助手 伊藤 信博
6月28日(月)(第5回)	■ファンタジーの古典『指輪物語』を読み直すー王権と道化について キーワード：王権神話、道化、絶対悪、影 J. R. R. Tolkienの『指輪物語』(The Lord of the Rings) ではHobbit族という神話や伝承には存在しない種族が道化として出現する。人間の来るべき王となるAragornにホビット族のFrodoが道化として仕えている。物語の初めでは、アラゴルンは王権を主張しうる流離いの王子であり、故国Gondorに王として帰還しようとしている。王子の苦難と放浪を経て復権に至る王権神話を道化であるフロドがいかに支えているのかを考える予定である。	助教授 渡辺 美樹

6月30日(水)〔第6回〕	<p>■「ウィーン古典派」の音楽を読み直す 助教授 藤井たぎる</p> <p>キーワード：社会／公共圏、作品／活動、形相／質料、私的／公的</p> <p>料理の「好き・嫌い」は個人の好みで他人からとやかく言われる筋合いのものではないが、ある楽曲の「良い・悪い」の価値判断は普遍的なものでなければならない、と哲学者カントたちは考えていたのです。このことは、これまで漠然と「クラシック音楽は高級だ」とみなされてきたことと無関係ではなさそうです。現代においてクラシック音楽にカントたちが考えたような普遍的価値がまだ認められるのか、あるいはもう認められないのかを検証してみたいと思います。</p>
7月5日(月)〔第7回〕	<p>■形而上詩とニュークリティシズム—モダン、ポストモダンていったい何？ 教授 安藤 重治</p> <p>キーワード：普遍、相対主義、詩、想像力、科学、ジョン・ダン、T.S.エリオット、I.A.リチャーズ、W.エンブソン</p> <p>1930年代から1950年代にかけて英米の文学批評を席卷したニュー・クリティシズムは、やがて構造主義やポスト構造主義、デコンストラクションといった新たな呼び名を持つ批評理論にとってかわられた。この講義では、まずニュー・クリティシズムの特徴を形而上詩復活との関連で明らかにし、さらに「普遍」という概念を鍵語として、ニュー・クリティシズムと20世紀後半の代表的な批評理論とのつながりを考えてみたい。</p>
7月7日(水)〔第8回〕	<p>■政治の原風景 助教授 布施 哲</p> <p>キーワード：政治、政治哲学、暴力、秩序、立法、倫理</p> <p>政治、もしくは「政治的なもの」とは、かつて何を意味し、そして現在、何を意味し得るのでしょうか。あるいは、暴力の嵐が世界各地で吹き荒れるこの時代に、もしも暴力をもってして応答するという以外の選択肢があり得るのであるとすれば、「政治／政治的なもの」についての原理的な考察は、そのような選択肢を提示するために、何某かのヒントをもたらすことが期待され得るのでしょうか。これらのことについて、先人たちの思索を辿りながら考えを深めてゆきます。</p>
7月12日(月)〔第9回〕	<p>■ゲーテの『若きヴェルテルの悩み』を読み直す—脱肉体化される人妻と嘘の北方伝説 教授 越智 和弘</p> <p>キーワード：ドイツ・ロマン派、ロマンティックな愛と死、女性の脱肉体化、禁欲主義、神秘思想</p> <p>この小説は、ロマンティックな愛の約束事を、もっともセンセーショナルなかたちで18世紀末のヨーロッパ社会に訴えた作品だとされる。しかし当時一世を風靡し、数多くの若者を自殺へと誘った小説の背後に渦巻いているのは、一般に想像されがちな無害なロマンティシズムとは無縁な世界である。女性を精神的に昇華することで愛するロマン主義の奥にひそむ真実を、作品をとおして解明する。</p>
7月14日(水)〔第10回〕	<p>■森鷗外の『安部一族』を読み直す—日本の男の主体とは？ 教授 松本伊瑳子</p> <p>キーワード：殉死、主体、ホモソーシャル</p> <p>新潮文庫『安部一族・舞姫』のカバーには、「許されぬ殉死に端を発する安部一族の悲劇を通して、高揚した人間精神の軌跡をたどり、権威と秩序への反抗と自己救済を主題とする歴史小説の逸品」と書かれていますが、この小説を、生より死に重点があった時代の、女・子供の登場しないホモソーシャルな世界の話という視点から読むことも可能でしょう。この話は昔の話なのか、現代日本に通じる話なのか、日本人の生き方の問題として、色々考えてみたいと思います。</p>
閉 講 式 大学院国際言語文化研究科長 近藤 健二	

開催期間 6月14日(月)から7月14日(水)まで 毎週月・水曜日 全10回

時間帯 18:30～20:00

受講対象者 一般社会人、大学生、大学院生

募集人数 60名(先着順)

受講料 7,200円(郵便普通為替で受講申込票に添えて)

郵便局で7,200円の普通為替を作成し、受講申込書とともに送付してください。普通為替の「受取人指定欄」には、何も記入しないでください。

開催会場 名古屋大学 東山地区 文系総合館7階カンファレンスホール (会場案内図参照)

申込期間 6月2日(水)～6月9日(水)まで〔必着〕

申込方法 郵送に限ります。

受講希望の方は、「受講申込書」に氏名・年齢・住所・電話番号・職業を、「受講票・領収証書・領収証書(控)」に氏名をそれぞれに明記の上、受講料(普通為替)及び返信用封筒(80円切手を貼付)を添えて書留郵便でお申し込みください。なお、書留封筒の表面左下に「公開講座受講申込」と朱書願います。

受講許可 受講を許可した方には、受講番号を付した「受講票・領収証書」を折り返し返送します。

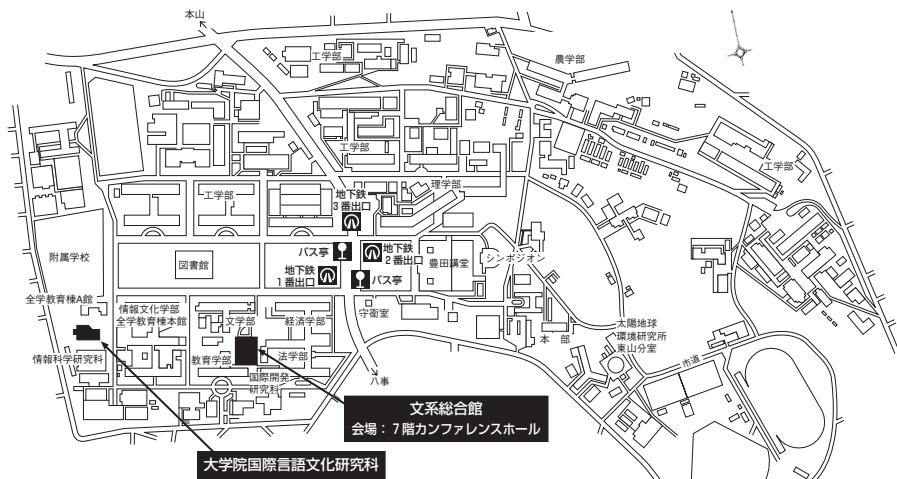
要項の請求 募集要項の必要な方は、返信用封筒(80円切手貼付のこと)を同封の上、下記申込先まで請求してください。または下記ホームページから印刷できます。

申し込みと 名古屋大学大学院国際言語文化研究科事務室

問い合わせ先 住所〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL: 052-789-5245・4833 [AM9:00-PM5:00] FAX: 052-789-4873

ホームページ <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/events/kokaikoza-2004.html>

会場案内図



〔本山方面から〕

	地下鉄名城線「名古屋大学」駅下車 (1番出口へ)
--	-----------------------------

〔八事方面から〕

	地下鉄鶴舞線「八事」駅下車 (1番出口へ)
	市営バスの7番停留所「八事」から 八事11(名古屋大学行)又は金山12 (名古屋大学行)で約10分 「名古屋大学」下車

----- 切り取り線 -----

平成16年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座

受講申込書

古典を読み直す

受付番号
※
受付年月日
※

フリガナ		年	
氏名	(男・女)	年齢	才
住所	(〒 -)	電話	() - 番
電子メールアドレス	職業		

※の欄には記入しないでください。

----- 切り取り線 -----

平成16年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座

受講票

受講番号	氏名
※	

※の欄には記入しないでください。

領収証書

平成16年度	※第	号	講習料
(納入者)			
納入金額		¥7,200	
ただし公開講座受講料			
平成 年 月 日領収しました。 名古屋大学大学院国際言語文化研究科出納員 大江 尚美			

納入された受講料は、いかなる場合でも返還できません。

----- 切り取り線 -----

平成16年度 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 公開講座

領収証書(控)

平成16年度	※第	号	講習料	納入金額	¥7,200
(納入者)			ただし公開講座受講料		
平成 年 月 日領収しました。 名古屋大学大学院国際言語文化研究科出納員 大江 尚美					